

医療薬学フォーラム2015

第23回クリニカルファーマシーシンポジウム の聴き処

名古屋大学医学部附属病院薬剤部

教授・薬剤部長 山田 清文

●日本のクリニカルファーマシー発祥の地・名古屋で初めての開催●

今日は、日本薬学会医療薬科学部会の主催する「医療薬学フォーラム2015 第23回クリニカルファーマシーシンポジウムの聴き処」と題して、そのテーマとプログラムの概要についてご紹介させていただきます。私は、実行委員長を務めます名古屋大学医学部附属病院薬剤部の山田清文です。

医療薬学フォーラムは、1985年に第1回が開催され、昨年、慶應義塾大学薬学部の望月眞弓先生が主催された第22回大会では、参加者は1,500名を超える大盛会でした。23回目となる医療薬学フォーラム2015は、日本病院薬剤師会および日本薬剤師会との共催により、今年2015年7月4日（土）と5日（日）の2日間、名古屋国際会議場において開催します。

若い聴取者の方はあまりご存じないかもしれませんが、名古屋は日本のクリニカルファーマシー発祥の地といわれています。今では当たり前となった薬剤師の病棟配置は、元・国立名古屋病院薬剤科長の二宮英先生が40年以上も前に始められたものです。二宮先生は「薬識」という概念の提唱者でもあります。その他、私の恩師である名古屋大学医学部附属病院前薬剤部長であり教授の鍋島俊隆先生が主導され、2000年に名大病院で始めた薬剤師外来もその後全国に普及しました。こうした先達と歴史を持つクリニカルファーマシーゆかりの地、名古屋において初めて開催される医療薬学フォーラム2015のお世話をさせていただくことはたいへん光栄であり、責任も感じています。

医療薬学フォーラムには、病院薬剤師、薬局薬剤師だけでなく、薬系大学の教育研究者や学生、製薬企業の研究・開発・医薬情報担当者など多種多様な参加者があり、その興味や研究分野は様々です。また、医薬品の適正使用や薬物治療管理などのクリニカルファーマシーの実践の他、Pharmacist-Scientistとしての薬剤師にはトランスレーショナルリサーチやレギュラトリーサイエンスへの参画・貢献も期待されています。そこで今回の医療薬学フォーラ

ムのテーマは「創薬と育薬に貢献する医療薬学」としました。ファーマシューティカルケアの実践から、薬学・薬剤師教育と生涯学習、創薬や育薬に関連する基礎・臨床研究、さらにはレギュラトリーサイエンスに至る幅広い医療薬学の研究分野をカバーし、2日間の会期中、全ての参加者が興味を持って討論に参加し、満足できるようなプログラムとなるように工夫いたしました。

●最新情報から若手研究者の発表まで網羅した今回のフォーラム●

ここで、今回の医療薬学フォーラム2015の聴き処を簡単に紹介させていただきます。まず特別講演ですが、全部で4題、4名の先生をお招きする予定です。7月4日(土)初日午前中は、日本薬学会会頭の太田茂先生による「日本薬学会について」、午後は名古屋大学医学部附属病院病院長の石黒直樹先生による「育薬における温故知新」を予定しています。さらに翌日7月5日(日)午前中は、公益財団法人ヒューマンサイエンス振興財団の竹中登一先生による「産学官連携による創薬の活性化」、午後には長崎大学病院薬剤部教授の佐々木均先生による「医療現場からの創薬—臨床指向の多機能型DDS開発」と題した特別講演です。いずれの先生も各分野・研究領域を代表する先生であり、全体を俯瞰した最新のお話が伺えるものと思います。ぜひ、ご参加ください。

次に教育講演ですが、7名の先生にお願いしました。

独立行政法人医薬品医療機器総合機構安全第一部長の近藤恵美子先生による「医薬品・医療機器の市販後安全対策について」、東京大学大学院薬学系研究科教授の澤田康文先生の「医薬品情報と育薬」、名城大学薬学部特任教授の鍋島俊隆先生による「うつ：基礎研究から臨床応用へ」、星薬科大学教授の鈴木勉先生による「オピオイド鎮痛薬を使いこなすために」、名古屋大学大学院創薬科学研究科教授の赤池昭紀先生による「モデル・コアカリキュラム改訂と薬学教育への期待」、公益社団法人薬剤師認定制度認証機構理事長の吉田武美先生による「薬剤師生涯研修と薬剤師認定制度認証機構の役割」、近畿大学薬学部教授の高田充隆先生による「医療ビッグデータに眠る真実を追う」、以上7つの教育講演です。

これら教育講演では、レギュラトリーサイエンスから薬学教育、薬剤師の生涯学習、クリニカルファーマシーの実践、創薬・育薬研究、医療ビッグデータの活用など、すぐにでも病院・薬局あるいは大学や企業等で活用、応用できる最新情報が得られるものと思います。特に若手の先生には、専門あるいは興味のある分野の教育講演に参加いただければ勉強になると思います。なお、特別講演、教育講演は、2日間とも第1会場のセンチュリーホールで行います。2日間この会場で勉強すれば、広範な医療薬学分野の最新情報をキャッチアップできると思います。

医療薬学フォーラムの中心となるシンポジウムセッションは全部で23の企画提案がありました。従来にない新しいテーマとしては、初日の「ヒト iPS細胞由来分化細胞を用いた創薬研究の課題と現状」「補完代替医療の科学的エビデンス」「薬学領域におけるトランスレーショナルリサーチ—特許出願と研究成果の関係」「信頼性を確保した臨床試験を推進するために～薬剤師に何ができるか～」、2日目には日本製剤学会との共催企画シンポジウム「吸

入剤の基礎から臨床」「地域医療で活躍する薬剤師を目指して」などがあります。

また、臨床現場のホットな話題をテーマとしたシンポジウムには、初日に「日常薬剤業務において得られたクリニカルエビデンス～エビデンス構築のための提言～」「PK-PDに基づく個別化薬物治療の最前線」「後発医薬品使用の実際と展望」、2日目の「がん分子標的治療薬のUp to Date～基礎から臨床まで～」「あなたの施設で薬剤師外来」「専門薬剤師の将来を考える～育薬に貢献できる専門性とは～」などがあります。

その他、第8回次世代を担う若手医療薬科学シンポジウムで優秀発表賞を受賞した新進気鋭の若手医療薬学研究者による講演も、シンポジウムとして2日目午後に開催します。医療薬学の次代を担う若手研究者を激励するために多くの先生、特にシニアの先生にも足を運んでいただければ幸いです。

シンポジウムセッションの他、「輸液処方設計のコツとフィジカルアセスメントのポイント」と題したワークショップを初日午後に企画しました。一般演題は合計300題の登録がありました。たくさんの演題登録、ありがとうございました。この場を借りてお礼申し上げます。一般演題はすべてポスター形式の発表としますが、優秀ポスター賞にエントリーされたもののなかから数題を優秀ポスター賞

として表彰します。また、ポスター会場には機器展示コーナーも設けますので、最新の調剤設備・機器も同時にご覧ください。昼食時には企業共催のランチョンセミナーを予定しています。

初日の学術プログラム終了後には懇親会を予定しています。八丁味噌を使った「味噌カツ」の他、「きしめん」「名古屋コーチン」「ひつまぶし」などの「名古屋めし」と地元のお酒も用意します。名古屋めしに舌鼓を打ちながら、交流を深めていただければ幸いです。

金の鯨をロゴマークとし、戦国武将三英傑ゆかりの地で、多数の皆様のご参加を心からお待ちしております。どうぞよろしくご挨拶申し上げます。

シンポジウム等

シンポジウム

1. 日常薬剤業務において得られたクリニカルエビデンス～エビデンス構築のための提言～
2. トランスポーターと創薬・育薬
3. ヒト iPS 細胞由来分化細胞を用いた創薬研究の課題と現状
4. 今後の不眠治療を考える –ベンゾジアゼピン系薬剤の功罪–
5. 学習効果の高い薬学実務実習に向けて
6. 補完代替医療の科学的エビデンス
7. 薬剤疫学: 医療情報データベースの本格的な利活用
8. PK-PDに基づく個別化薬物治療の最前線
9. 薬学領域におけるトランスレーショナルリサーチ・特許出願と研究成果の関係
10. 後発医薬品使用の実際と展望
11. 信頼性を確保した臨床試験を推進するために ～薬剤師に何が出来るか～
12. がん分子標的治療薬の Up to Date～基礎から臨床まで～
13. あなたの施設で薬剤師外来
14. 2025年を見据えた認知症の治療戦略: 新薬開発と医療連携に向けて
15. 慢性疼痛の病態と薬物療法: 次世代疼痛緩和療法に向けた最新知見
16. 適正な医薬品リスク管理計画(RMP)の実践に向けて 現状とその課題
17. 吸入剤の基礎から臨床(日本製剤学会共催企画シンポジウム)
18. 専門薬剤師の将来を考える ～育薬に貢献できる専門性とは～
19. CKDの進展阻止に関する基礎と臨床
20. 第8回次世代を担う若手医療薬科学シンポジウム優秀発表賞受賞講演
21. 泌尿器科領域において薬剤師は何か出来るか? –臨床に直結する研究の重要性について–
22. 皮膚薬科学の魅力と拓かれる可能性
23. 地域医療で活躍する薬剤師を目指して!

ワークショップ

輸液処方設計のコツとフィジカルアセスメントのポイント

ポスター企画

私たちの施設の実務実習を紹介します!!